

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 ポコアポコペーロ		
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1			
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1			
2			
3			

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 ポコアポコバード		
○保護者評価実施期間	2026年2月19日		～ 2026年3月11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年2月19日		～ 2026年3月11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが楽しく通える質の高い支援と、保護者への丁寧な個別対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートで「子どもは通所を楽しみにしている(とても喜んで通っている)」「支援に満足している」が非常に高く、職員の共感的な姿勢が評価されています。</li> <li>LINEやInstagram等のSNSを活用し、子どもの様子を動画や写真で定期的に(出来たことがある時はその都度)保護者へ発信し、日々の状況共有に努めています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS等での発信において、職員間で「対応できる家庭とできない家庭の差が目立つ」という課題感があるため、連絡の頻度やルールのガイドライン化を行い、全家庭へ均等かつ持続可能な情報共有体制を構築します。</li> </ul>
2	日々の事後振り返りの徹底と、PDCAサイクルへの職員の参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>終礼等を通して支援終了後に必ず職員間で振り返りを行い、気づきやヒヤリハットを事業所内で共有・検証する文化が定着しています。</li> <li>活動プログラムが固定化しないよう工夫し、個別・集団を組み合わせた柔軟な療育を提供しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後の振り返り(終礼)の質の高さを活かし、その内容を翌日の支援や「事前打ち合わせ」に効率的に引き継げるよう、情報共有ツールや記録フォーマットの最適化を図ります。</li> </ul>
3	児童発達支援計画に対する保護者の高い納得度	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的なモニタリングを通じ、保護者の意向を確認しながら計画を作成・説明し、高い確率で同意を得られています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在は管理責任者が中心となって計画を作成していますが、今後は子どもに関わる全職員がアセスメント段階から関われるよう、職員間のカンファレンスの機会を増やし、チーム全体の専門性をさらに高めます。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時対応(BCP、防災、アレルギー対応等)の体制整備と保護者への周知不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務継続計画(BCP)の策定や、防犯・感染症等の各種マニュアル整備、およびそれに基づく訓練が不十分です(従業者評価)。</li> <li>結果として、保護者評価でも「マニュアルの周知や訓練の実施」に対して「どちらともいえない」「わからない」という回答が多数を占めています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早急にBCPおよび各種安全・防災マニュアルを策定し、事業所内での避難・救出訓練を定期化します。</li> <li>策定した安全計画やアレルギー対応のルール等を、おたよりや保護者会などを通じて保護者へ積極的に周知・説明し、安心感の向上に努めます。</li> </ul>
2	保護者同士・きょうだい間の交流機会や、地域・医療・関係機関との連携不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>目の前の子どもと保護者への個別対応に注力している反面、父母の会、きょうだい支援イベントなどの企画立案に手が回っていません。</li> <li>主治医や病院との連携が薄く、地域の保育所・学校への移行支援において、相手側の理解を得るためのコミュニケーション時間が不足しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年に数回、保護者同士の茶話会や、きょうだいも参加できる事業所イベント(夏祭り等)を企画し、家族間交流の場を提供します。</li> <li>医療機関や学校に対して、事業所の支援内容をまとめたパンフレットや支援記録を持参するなど、積極的な情報発信と関係性構築に努めます。</li> </ul>
3	人員配置やスペースの制約による、事前打ち合わせ不足と環境面での課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>パート職員が多く勤務時間が限られていること、また送迎や記録業務の多忙さから、支援開始前の事前打ち合わせの時間が確保できていません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短時間(5分程度)で要点を共有できる「事前ミーティング用シート」を導入し、限られた時間で確実な情報共有を図ります。</li> <li>療育道具の収納方法の見直し(断捨離やレイアウト変更)を行い、集団活動のスペースを確保します。また、照明器具の増設等を検討します。</li> </ul>